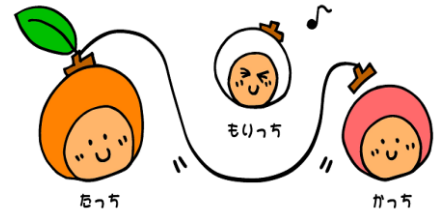


《高森町》 高森町ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒399-3102 下伊那郡高森町吉田481-1			
電話 FAX	0265-34-3001	0265-34-3002		
電子メール	center@takamori.ne.jp			
HPアドレス	—			
職員数	正規	1名	嘱託	—
	臨時	1名	その他	—
開所日と時間	平日 8:30～17:00 土日を除く			
情報誌	ぼらんていあ高森 毎月1回発行			
来所者数	年間 730名			



〔センターの運営方針・指針等〕

- 1 ボランティアセンターは、高森町に暮らす一人ひとりが輝ける存在であるような活動の拠点とします。
- 2 ボランティアを必要とする人、活動する人、誰でも自由につどい、互いに認め合い、助け合いや支えあいの心をつなぎ、住みよいまちをみんなで創ります。
- 3 地域の悩みや課題に気づき、解決していく力を育み、高めます。そのための自主的な活動を支援します。

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	会議室（無料）、地域交流センター（杉の木ホール）、あさぎり茶屋
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	テーブル、いす、ホワイトボード、情報紙、情報ボード
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	コピー機、用紙、歌集、南京玉すだれセット、パソコン、輪投げセット
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	高齢者疑似体験セット
登録グループの専用ポストの設置	—	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	有	規約作成予定
名称	高森町ボランティアセンター運営委員会	
	平成22年10月1日 毎月1回定例会開催	
委員構成	10人（委員長1名 副委員長1名）	
事業への関わり	イベント事業の協力	
工夫点	—	
課題点	個人個人の運営委員会のとらえ方が違うため、検討課題がまとまらない。ボランティアセンターとしても、運営委員会の皆さんにどのような関わってもらえたいか悩みます。	

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	無	規約	—
名称	—		
	—		
協議会構成	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔財源〕

人件費	独自財源	—	
	共同募金	—	
	委託料・補助金	<input type="radio"/>	町の委託費
	民間助成金	—	
	その他	—	

事業費	独自財源	<input type="radio"/>	社協会費
	共同募金	<input type="radio"/>	
	委託料・補助金	<input type="radio"/>	健康福祉課
	民間助成金	—	
	その他	—	

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？	—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？	
連携・協働先	連携・協働内容
NPO法人リペイ	学用不用品交換情報交換事業
下伊那厚生病院	下伊那厚生病院祭 バザー販売
(ボランティア団体) ボラセンサポートたけのこ会	天候不順による不育レタス収穫、販売 年末救援米配布
○センターの強みと弱みについて	
<p>《強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気楽に立ち寄れる雰囲気のため、地域の人とのつながりももちやすい。 ・来所者が独自で活動してくれる。 	<p>《弱み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己資金の調達が困難。 ・予定外の支援を求められたとき、社協の決裁が滞るため、迅速な対応ができないときがある。

○VC見取り図



<p>○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア講座（未経験者向け、活動者向け）福祉教育などどのような企画をしているか。 ・運営委員会との関わり方。
--

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	子ども福祉教室
目的	子どもたちに福祉に対する理解を深めてもらうため。
開催頻度	3回
内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 高森中学校 1学年 「人権教室」(施設見学事前学習) ② 折鶴つなぎ ③ 高森南小学校 3学年 子ども福祉教室 「障がいについて」
対象者	小学生、中学生
企画のポイント 事業成果	昔に比べ他者との交流の機会が少なくなり、コミュニケーションがとりづらい子どもたちが増えています。学習の機会と共に、地域の人々ともつながり交流してもらえるように企画しました。
参加者の声や その後の動き など	<ul style="list-style-type: none"> ○折鶴つなぎ 「楽しかったです。戦争体験のお話を聞いて平和でいてほしいと思いました」(中学生) 「皆さん(特に中学生と)コミュニケーションが取れて良かったです」(ボラグループ) 「初参加しました。中学生の多さにびっくり。楽しく話しができました」(一般ボラ) ○高森南小 子ども福祉教室 障がいについて 「障がいがあっても普段と変わらないように接したい」(3年生児童)

事業の様子

